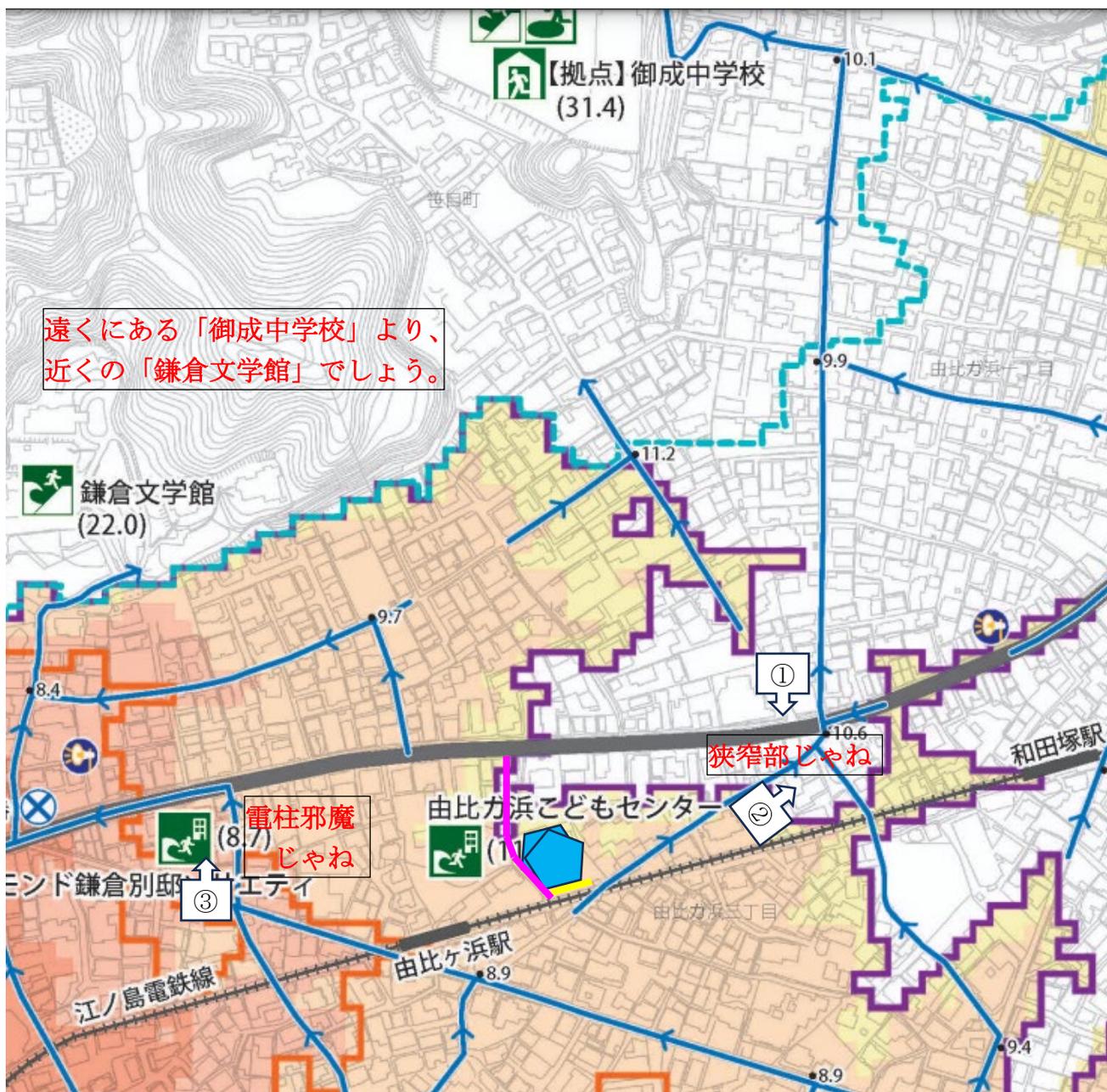


・鎌倉市津波ハザードマップ：由比ガ浜・材木座エリア（鎌倉地域）

津波浸水想定域の中にある「由比ガ浜こどもセンター」への「避難経路」はそもそもありません。由比ガ浜の住民らに、鎌倉市は「御成中学校」へ避難するように「避難経路」を設定している。確かにその経路は、「津波浸水想定域」を通らないで済むような経路が選定されていますが・・・



由比ガ浜こどもセンター東側、由比ガ浜中学校西側にある2項道路、鎌倉市道：212-067号線は、ちょうど、由比ガ浜中学校敷地の裏側まで「津波浸水想定域」から「辛うじて」外れています。

この鎌倉市道に繋がる、由比ガ浜中学校の南側の「道路管理地」は、最短の避難経路になりますし市道は将来的に幅員が4mに拡幅される訳ですから、道路管理地も「有効幅員：4m」は必要です。

・避難路として想定される市道 002-016 号線の狭窄部（鎌倉市都市計画道路交差点）



(1) 由比ガ浜大通りからの分岐点

由比ガ浜通りから由比ガ浜中学校に向かう道の交差点は極めて狭い状態で幅員は 2m 程度しかない狭窄部です。ここを通過せずに浸水想定域ではない避難所へ逃げるのは困難な状態です。

この交差点は都市計画道路とされて再建築が制限されているために、古い木造建築物が多く残っていて危険。



(2) 狭窄部の手前に合流点がある

狭窄部の手間には、複数の方向から避難者が集中する構造になっている。

狭い出口に向かい将棋倒しが発生し 2 次災害の発生が容易に想像できる。

耐震性に疑問が残る建物が多く残り倒壊する危険が高く、避難経路とするのは相応しくなかったのではないかと。



(3) 避難経路の真ん中にある電柱

鎌倉市道：212-067 号線と同じ様に避難経路とされている道路の中央には住民の避難を拒むように電柱が立っており、車椅子等での避難は困難です。

緊急時のみならず平時でも救急車や消防車が進入できない「危険な道路」について鎌倉市は対策をしていない。

## ・緊急避難路と津波避難場所の選定の問題点

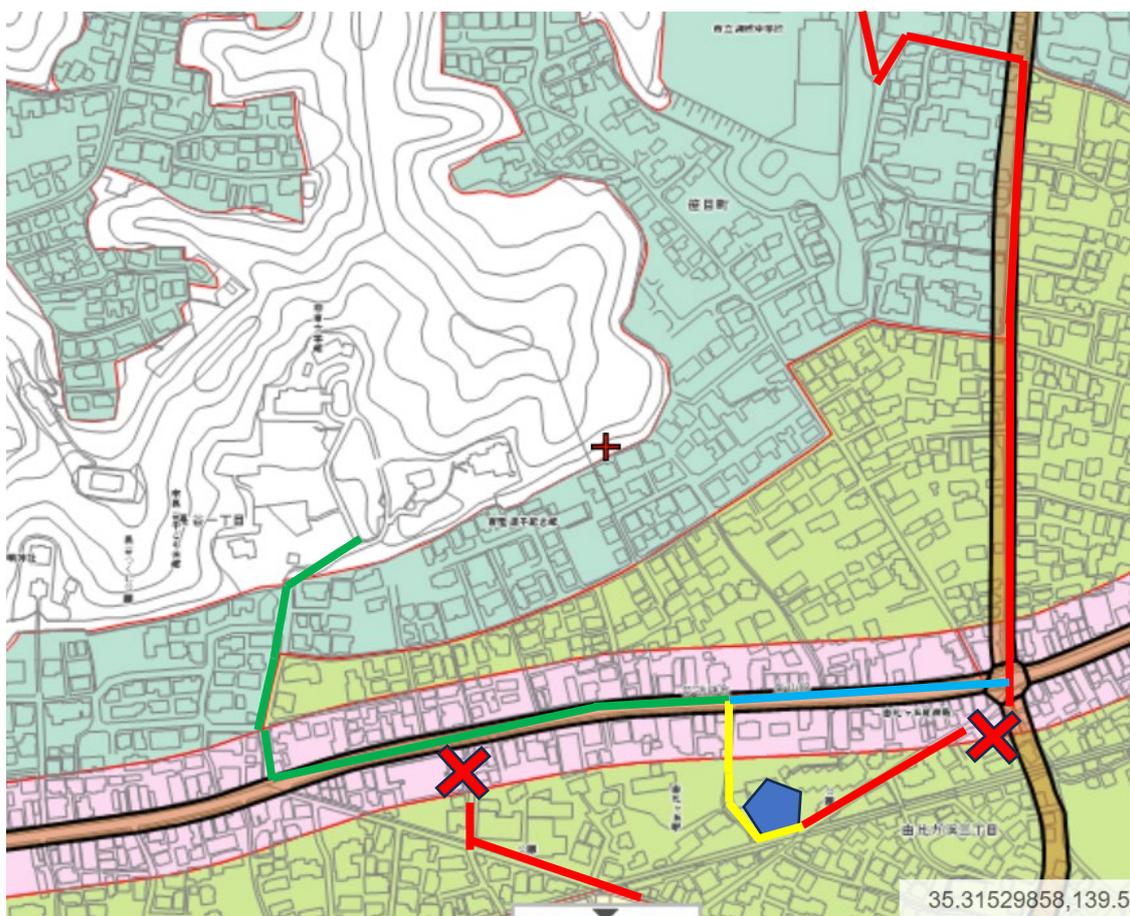
「避難路」ではなくて、「避難経路」ということに、論点をすり替えられているように感じます。

由比ガ浜はぜ公園の前からは、由比ガ浜中学校の駐車場の目の前に、由比ガ浜こどもセンターが見えていますから、わざわざ遠い御成中学校に逃げるよりも、より短時間のうちに近くの津波避難ビルに向かって避難すべきであることは明らかです。

都市計画道路として幅員が拡幅された後であれば、御成中学校への避難は合理的ですが、現状は幅員が4m未満で、自動車のすれ違いも難しいような狭隘路線が続いている場所です。

そもそも津波浸水想定域からの避難に重点を置くのであれば、遠くの御成中学校ではなく、近くの鎌倉文学館や、場合によっては甘縄明神社のほうに避難させるべきはないではなからうか。

このままでは、避難できずに大多数の住民や観光客らが津波に巻き込まれてしまうのは自明です。



「道路管理地」と「市道 212-067 号線」を利用することで、安全な避難経路とすることができる。

「都市計画道路」自体が実現不可能で、道水路管理課や調査課は何をやっているのでしょうか？